

# 金沢学院大学 美術文化学部 文化財学科

代表者	見瀬 和雄（文化財学科長）
所在地	〒920-1392 石川県金沢市末町 10 番地
設立年月日	2000 年 4 月 1 日
URL	<a href="http://www.kanazawa-gu.ac.jp/university/bijyutu/bunkazai/index.html">http://www.kanazawa-gu.ac.jp/university/bijyutu/bunkazai/index.html</a>

## 【設立趣旨・沿革・活動目的】

文化財学科は平成 12 年（2000 年）4 月に、百万石文化の伝統を受け継ぐ歴史文化都市「金沢」の地に発足しました。本学科では、「日本史コース」、「考古学コース」、「保存・環境コース」の 3 領域を設け、多岐にわたる文化財の調査・研究・保存・活用について、その知識と技術の修得をはかります。また、それらの専門分野の学問的基礎を身につけるとともに、関連する文化財を多面的に学ぶことによって、人間としての豊かな文化的資質を磨き、あわせて地域文化の発展に寄与できる人材の育成を目指しています。

## 【活動内容】

### ●日本史コース

日本の古代史・中世史・近世史・近代史の専門的知識を学び、文化財が生み出される歴史社会への理解を深めます。実際の古文書を使って、文化財としての古文書の整理方法を学び、石碑などの石造遺物を現地調査し、古文書以外の文献資料をも使った歴史の研究方法を学びます。



勝興寺文書の内の書籍に関する調査

### ●考古学コース

遺跡やそこから発掘される考古資料を対象に、基礎的な考古学の方法論を学んだ上で、資料の取扱い、発掘調査、資料の記録・整理、分析の方法など、実物資料を活用しながら実践的な知識や技術の習得を目指します。



古文書の修復

### ●保存・環境コース

史跡や町並みなどの文化遺産の保存方法、それらを活用したまちづくりのあり方について学ぶ「歴史環境」、気候・地形・植生など過去の環境復元や年代測定を中心とした「古環境科学」、文化財の材質・技法を分析し、保存方法・保存環境を考える「保存科学」の 3 領域から多面的に文化財を捉えます。



寺町台地区の伝統環境調査

### ●地域連携・外部機関と共同研究等

#### (1) 古文書の整理・目録作成

各地の古文書の整理や古文書目録刊行のための基礎調査を行っている。石川県穴水町中橋家文書、輪島市角海家文書、羽咋市正覚院文書、富山県高岡市勝興寺文書など。また石川県珠洲市の製塩資料基礎調査を行っている。



古文書の調査・整理

#### ・連携機関

石川県内自治体（穴水町、輪島市、羽咋市、珠洲市）、富山県内自治体（高岡市）

#### (2) ロシア沿海地方における渤海遺跡の調査

2009～2012 年度まで、4 カ年でロシア沿海地方における渤海遺跡の様相を調査し、データベースを作成する。2009 年度には、本学学生が渤海遺跡の発掘に参加している。



古環境調査

#### ・連携機関

ロシア科学アカデミー極東支部  
歴史学考古学民族学研究所

#### (3) 出土遺物の保存処理

各自治体の教育委員会と連携し、各自治体管轄の遺跡から出土した出土遺物（木製品、金属製品）を、学生の保存処理実習用資料として借り受け、処理終了後には展示公開のための活用が可能な状態にして返却を行っている。



出土木製品の保存処理

#### ・連携機関

石川県内自治体（金沢市、能都町、津幡町、野々市町、小松市）  
富山県内自治体（富山市）

#### (4) 被災文化財の復興活動協力

平成 19 年 3 月に発生した能登半島地震により被災した文化財の復興活動について、穴水町教育委員会からの復興協力要請を受け、転倒した石造文化財の復元作業、個人による保管が困難な状態となり町が寄贈を受けた古文書の調査・整理作業を行っている。



災害復興ボランティア

#### ・連携機関

穴水町、輪島市

#### (5) 金沢市における町家調査と継承活動

寺町台地区の伝統環境調査において、寺院群土塀基礎や坂道擁壁、用水護岸などの石積調査を実施、町家調査では町人の伝統住宅（町家）の外観意匠に関する地域間比較などを行っている。



珠洲揚げ浜製塩調査

#### ・連携機関

NPO 法人 金澤町家研究会

## 【活動上の課題と今後の展望】

社会的な歴史遺産保護への機運が高まる中、学生の中にも卒業後の進路として、博物館、美術館、文書館、埋蔵文化財調査員、文化財修復者などの専門分野での活躍を希望する者も少なくありません。しかし、現実社会においては、そのような分野の募集が決して多いとは言えず、大学で学んだ知識や技術を活かして社会貢献できる人材を送り出すことが年々困難を極めています。

国内の博物館施設における学芸員の増員、文書館における専門職員の必要性と文書館の増設、博物館施設等における保存・修復専門員の配置の必要性について、法制化なども視野に入れた整備を望んでいます。